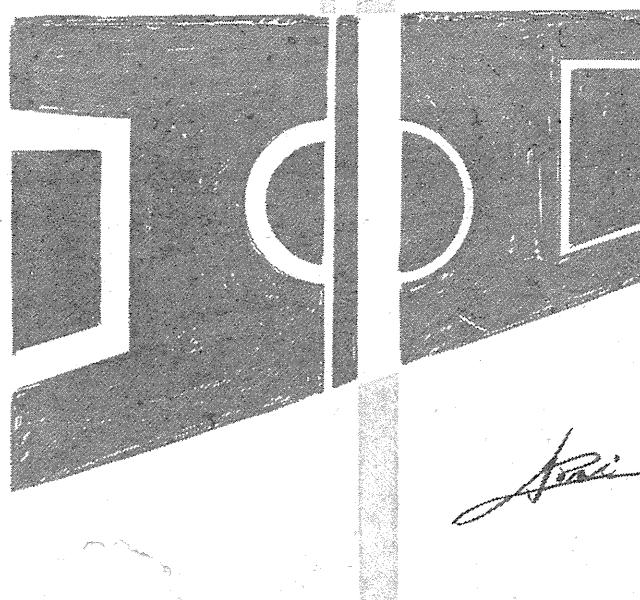


DASH



12

光学園蹴球部

11月216th

私もサッカー部員です。山本マサヨ 32

十周年記念行事事

国体県予選

対湘南戦に恩づ

一高校 生 41

38

三浦半島大会

41

（）しつぶ

合宿のおばさんより（技内原）金子スミさる

44

対防大練習試合 九月二十三日

42

ワインゲ哀歌

41

海とクラケと サッカーと

40

サッカーと

47

一筆啓上

47

苦悶

47

ランニング

47

表紙の言葉

47

後記

47

渡辺

47

県大会を終えて

47

初試合に出て

47

十五期 宮内恒雄

47

元部員の苦言

47

この意気

47

スポーツライター

47

構成十二期 田島卓也

47

32

全国大会

主将 伊東一雄 / 東郷寛 2

練習日のこと
新入部員紹介

部長 3

関東大会予選

予選リーグ戦 4

決勝リーグ戦

7

わが友サッカー部へ

ドナル・ドイル 11

合宿日誌

13

由学生のために

佐藤政 20

中学練習試合

22

対六中戦

十四期 小菅恭彦 22

対一中戦

十四期 佐藤研三 23

県学生夏の大会

25

全 国 大 会

主将伊東一雄

れにくらべ現在はこれ程の熱が部内にはわかないような気がする。
結局この成績低下の原因は「気力」

という一語に關係してこよう。試

合は開始の木イツスルが立った時

に始まるのではない。相手校が決

まつた時、それが部室の黒板に書

かれた時に始まるのである。試合

前にもう相手をのみこもう、大阪

を目指す氣力で、「湘南なんか！」

「鑑學なんか」という氣力で相手を

のみこんでしまおう。練習量の豊

富な湘南のあの強さも結局は技術

である。易しいことではないが、

それを氣力でのみこんでしまおう。

今恐らく全国大会の対戦表が黒

板に書かれているだろう。それを

にらみながら、大阪を目指そう。

を合言葉に、みなのが全国大会出

場を是非成遂げよう。打倒湘南！

今年も又一年の最終目標である全国大会が近づいてきた。この雑誌が発行される時には或はもう始まっているかも知れない。みなサッカー部員は、特に高校部員はどうな心理構えでこれに臨んでいけるのだろうか。

最近5年の記録を振り返って見

よう。81年全国大会出場達成、82年神奈川県下優勝、83年4年決勝進出、84年3回戦敗退、と近年になつて次第に成績がかんばしくなくなつて行く傾向があるようである。この原因は何であろうか。そ

れは技術の差であろうか。しかしボールも満足になかつた。六、七期生（全国大会出場）と、ボトルも豊富で関東大会にも出場した10期生との間にどれ程の技術の差があるだろうか。むしろ技術的に

は次第に高まつてきていていると言え

るだろう。

昔の「ダッシュ」を見ればわかる

ように、全国大会を目指す部内の

雰囲気の高まりは相当なものであ

つたようである。「大阪へ行こう！」

に向けられていたようである。そ

練習の二七

部長東鄉寬

昭和二十七年四月わが蹴致部は
神奈川県蹴致協会に登録された。
その前からもある程度の活動はな
されていたが、この時出生届が役
所に出されたりようなものだ。当時
の思い出や備忘は既にこの粗疏に
多くの先輩諸氏によつて書かれ
てゐるので割愛したい。

部の創始期において何よりの私の念願は試合には是非勝ちたいということだった。当時「栄光」といつても一体どんな学校なのかな

前さえも一般にはもちろんサンカーをやつてゐる人たちの中にも知る人は少なかつた。なんとか存在を認めてもらいたい。そのためには勝つことだ。それなのに週二回の練習しか許されていない。これは大へんつらかった。もう少しやればなんとかなるのにと幾度思つたことだろう。しかし部員の意識的な團結と熱心な研究はこの困難を次第に征服していった。十年の歩みはこの成果を明らかに物語つて

選手たるものは機業を受けることさえも困難であるという話をよく聞く。國家は原水爆を作るのと同じようにスポーツ選手を作る。政治的宣伝のためである。スポーツのスポーツとしての価値はもはや忘れられてしまつたのであろうか。競争となつてしまつたようである。スポーツは会社や学校や国家の奴隸となつてしまつたようである。

スポーツは今、二年後の東京オリンピックを前に空前のブームである。会社は自己宣伝のために大学や高校の有名選手を採用する。

スポーツ選手への至上命令は金メダルを得ること、勝利のみがすべてなのだ。スポーツ隆盛の今日私はスポーツの危機と同時に教育の危機を考えざるを得ない。

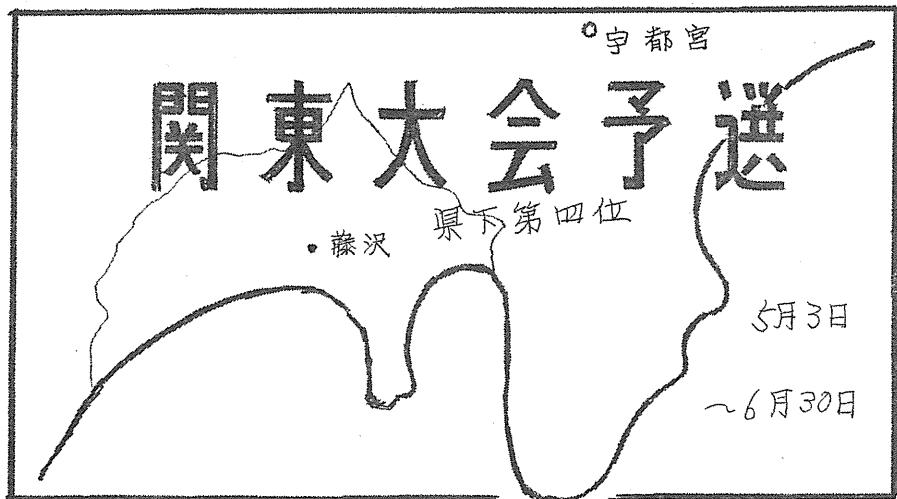
週二回の練習ということは私ちが無意識のうちにスポーツに溺れ自己を忘れ奴隸となりはてる危険から救つてくれた。勉強、読書、家庭での生活など私たちの務めは多い。スポーツはあくまでもこれ等の潤滑油でなくてはならない。全人間的生活との調和こそ私たちが目標としなければならないものである。この十年はこの意味において恵まれていた。次の十年も週二回の練習の中に盛られた意味を更によく理解し、これを基本原則として部活動の推進に努力しよう。

練習日は少くとも綿密に計画され

た張りのある練習こそ私たちの飯山の生命である。

新入部員紹介

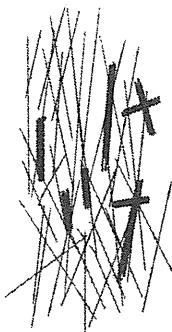
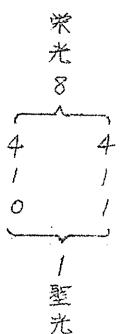
- 飯沼 勝（川崎）
○ 山本 肇（横須賀）
14期 山本君の弟
○ 田俊信（横浜）
9期 山田さんの弟
○ 成木 平（横浜）
○ 須川 和比古（鎌倉）
○ 平本 慎（横浜）
○ 望月 曜文（横須賀）
○ 沢本 正平（川崎）
○ 今野 秀雄（横浜）



予選リーグ戦

一回戦対聖光

五月三日於関東学院



いよいよ毎年の第一目標ともい
うべき関東大会が始まったのであ
る。春休みの「ダツシユ」クリラン
ニング十周・腹筋・ジャンプ等の
苦しい練習もすべてこの関東大会
を目的にしてきたのである。特に
今年はリーグ戦でトーナメント出

GRK 佐藤(政)

FB 青山野
星

HB 中川山口
秋極

FW 渡辺(幸)
村田
佐藤
吉田
越智

聖光ファイトをなくしワンサイド
ゲームとなつて聖光の一方的勝利
に終つた。しかし猪戦にしては活
気に点を重ね、特に後半に入つて
聖光ファイトをなくしワンサイド
ゲームとなつて聖光の一方的勝利
に終つた。しかし猪戦にしては活

場面を決めるので、順調に書ち続
けたら、これから二ヶ月もつづく
ので、中だるみしないようまづ最
初からはり切らなければならぬ。
今日の相手は聖光・現高一が中
学冬の大会で苦戦しているだけに
油断できぬ。開始後すぐ攻撃コ
ースのLW越智がら攻め入れ先取点
をあげる。しがしすぐ又聖光中央
から攻撃、あつさりと同点にされ
てしまう。しかしその後聖光は着
実に点を重ね、特に後半に入つて

二回戦対関東

五月五日於関東学院

栄光 6 — 2 1 0 — 0 関東

この日は朝から雨がはげしくどうなることかと思われたが、試合

前二三にはどうにか時々バラつく程度になつた。しかし前の翠嵐対

希望ヶ丘の試合から察してこそ乱戦になるだろうと思われたが果してその通りになつた。ラインを割

ると思われる球は水たまりで止まつてしまふし、はすみそうな球が地面にへたつたり、大変な試合になつた。しかし馬力の不足する敵に対し、栄光は着実に点をかね、圧勝した。

志お今日雨のせいが遅刻者が大分いたが関東大会だというのにこまつた話である。

藤(3)

GK 佐藤
FB 伊星
HB 中秋樋口
FW 渡村佐吉

東山小島
伊山山口
中秋樋口

立田(率)
藤田森田智
渡村吉越

藤(4)

GK 佐藤
FB 青星
HB 伊秋樋口
FW 渡村佐吉

東山小島
伊山山口
中秋樋口

近田森田智
渡村吉越

三回戦対神工

五月六日於栄光

栄光 9 — 2 1 0 — 0 神工

五月の連休の最後の日、そろそろ

口ざしが暑く感じられるようにな

る。前半左角であつたが後半に

入つてフォワード急に調子づき

て全く苦戦であつた。前半栄光押し

しきみに試合を進め15分ゴール前

を左から球が流れる前、CF佐藤が

きめ先取点をあげるが、その後抑

り長い前半を終える。

後半栄光がせん押され出す。つ

栄光 2 — 1 1 0 — 1 浅野

五月十三日於三ツ沢

四回戦対浅野

いに17分敵のフリー・キックを取られる。この時栄光前日書つたばか
りのパンクスが三人二人で一列に
並ぶ戦法を取るが、急ごしらえの
弱味で、うまく行かず、ゴール前
混戦となり、ショートをきめられ同
点にされる。あせった栄光、攻撃
がちぐはぐで一向に点が入らず。

ついに50分をこえたので、このまま
引き分けとも思つたが、32分LW
越智がハーフラインから独走し右
すみに突めてようやく勝つことが
できた。今日はレフリーグ時間も
まちがえて5分ハーフでやつたの
でそのため勝つことができた。今
ハーフラインでごつそりメンバー
を代える予定だったが、三人までし
か交代がきかないとわからりそのた
めにも大分混乱した。今後こうい
うミスを起こさないようにしよう。
される。どうも栄光は簡単に角質

GK	佐藤(攻)
FB	戸田 星野
HB	中川東 秋山(文) 中村(幸) 渡辺(幸)
FW	村田 佐藤(純) 堀谷吉田 久保田越智

五回戦対翠嵐
五月二十七日於栄光

栄光 8 — 6 / 2 — 2 翠嵐

今のところ二位の翠嵐希望FC
が二敗しているので、今日勝てばり
ー格戦優勝である。とは言うもの
のあまり実感がわいてこないのが
実情である。試合直前より雨がふ
り出すグランドが少々すべるよう
になる。開始後わずか30秒LW越智
が二得点して、どうにかこの試合をものにし、り
ー格戦の優勝を決定した。

GK	佐藤(攻)
FB	戸田 星野
HB	中川東 秋山島 中村(幸)
FW	村田 佐藤(純) 吉田 越智

六回戦対希望 FC
六月三日於三ツ沢

栄光 4 (0-1-0) / 希望 2 (4-1-1)

りーグ戦最終戦 第一戦から丁度一ヶ月目である。前半栄光FWはワード全く不調でさつぱり攻撃の芽が出ない。逆に敵FWオーバーに何度か押しこまれ味方ゴールをあやうくされた。ところがこの最後LW越智と敵RBが球を真中に放たRBは罕例しりいれんを越すという事件が起きた。あわてて試合を中心し救急車を呼んだ。大変代配されましたが、それほど大したこととは志かつたようではなかった。こんな様子で混戦模様だったが後半栄光どうやら本来の調子を取りもどし6分LW越智のコーナーが直接ゴールインしたのをきっかけに10分RW渡辺のコーナーが角び直接ゴールライン・25分は越智のセシタリ

シグを渡辺が、24分には右から流れる球を越智がダイレクトで、それをきめ4点を上げる。28分敵FWはCH→CF→LWで攻撃してきて一点返すがそのままタイムアップ。

ついにりーグ戦完全優勝をとげた。

高校部員が全員、関東大会予選に

出場したことになった。このこと

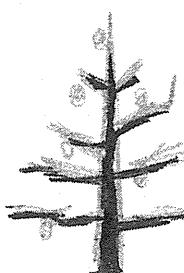
は微妙な問題であるから、色々批判も多いだろうと思われる。しかし少なくともこのことは栄光にとつて今年の関東大会に輝かしい特徴をのこしたということは言える

準々決勝対慶應

六月二十三日於県営ローン

栄光	ス	2	1	0	0	1	0
0	1	0	0	0	0	0	0

さあいよいよ関東大会予選の本番とも言うべき決勝りーグが始まつたのである。ここで負けたら今までりーグ戦でどれだけ勝とうが全く水の泡となるのである。今日は学校が終つてから高校部員全員



決勝リーグ

学校のバスで県営グラウンドに着りこむ。とにかくこの試合だけはどうしても勝たねばならない。試合開始采光押しきみに試合を進めるが敵の大きな一蹴ですぐ盛り返されてしまう。特に決勝リーグともなる痛切に感じるのは他校のキンクのよさである。他はとにかくロングキックという点に於ては采光は他校にかなり劣る。この慶應もピングキになつても非常に不利

GK 佐藤(城)

FB 青山
伊星

HB 佐伊
伊秋

FW 佐藤(城)
伊秋

トでKOを圧倒するようになり、前半3分R村田がドリブルで右側から切りこみゴール前に流し。それを再びLW越智が真ん中に流すところをCF佐藤が会心のシュートをきめついに0-1-0の均衡を破つた。

今ゴール前混戦となりR村田RW渡辺らがヘソディングの応酬をする

采光 2
— 0 0 0 2 1 1
— 0 1 1 1 — 4 鎌学

6月24日於県営ローン

KO	E/KO
4(0)	5 10(2)
9	QK 6
5	CK 2
0	FR 0
0	PK 0

光
跋
慶
應

左体勢から正確な強いロングキックをしてくるのでせつぐくの攻撃がたちまちファイになるのである。

さて采光、一向に点が入らないうちに一進一退状態となり30分30分の時間をやりつくして延長に入れる。采光それまでみながしくなつたが不調だったが延長になると生き返ったように元気になりファイ

クのよさである。他はと一歩く

うちこぼれた球をCF佐藤がヘンド

采光 2
— 0 0 0 2 1 1
— 0 1 1 1 — 4 鎌学

6月24日於県営ローン

今日の試合に勝てば上位二校となつて念願の関東大会出場が達成できる。春の練習試合で鎌学に完敗している采光ももちろん化死だが、来週の期末テストをひがえ、試合は前半采光有利のうちに進められる。み友昨日の不調を以てめするかのように好調で特にファイ

ワードはバスが良く通る。そして
11分RW越智が独走し真ん中へ流し
ゴール前横断するところ見村田が
見事に決めてまつ光取点。その後
鎌子もよく攻めるが、エイバーのCF
吉光を三人でマークしたためと、
キーパー佐藤の好守備とで難をの
がれる。そして18分栄光は、RW渡
辺が独走し真ん中へ流すところ敵
LBがけりそこを球がゴールにころ
がりこみ 二点目をあげる。この
時誰の胸にも 選手の胸にも底抜け
している者の胸にも「これで甲都
宮に行ける」という妄想感が走つ
た。これがいけなかつた。このた
め22分栄光バックバスのミスがら
キーパーのいないゴールへRIトリ

のセシタリングをLがダイレクトできめ、ついに鎌子に同点にさ
れてしまう。しかしこのためかに
つて安心した栄光又調子を取りも
どし 再びあしはじめる。しかし
シユートカが本ほしていいるのか
ついていかないのが おしいシユート
がことごくはずれどうして
LBがけりそこを球がゴールにころ
がりこみ 二点目をあげる。この
時誰の胸にも 選手の胸にも底抜け
している者の胸にも「これで甲都
宮に行ける」という妄想感が走つ
る。前半はもち応えるが後半2分
鎌子右からのコーナーキックを得
それをLがヘンドできめ ついに
栄光リードをうばわれる。しかし
まだチャンスはある。栄光全員攻
撃にうつり 必死に駆。ゴールにつ
めよるものにならず、かえつて
8分全員攻撃のスキをついた敵RI

鎌子	日K.O
18 S	13
8 GK	9
3 CK	4
4 FK	4
0 PK	0
主審 鈴木氏 兼審 小田氏 審判 池田氏	

GK
FB
HB
FW

藤山晶 東山野
佐青小伊秋豊 渡村佐吉越
(南)22(1)43

に軽く独走されキーパー佐藤とび
出して突こむもおよばず右すみに
ダメを押された。万華休す。その
ままタイムアップとなる。せつが
くり!ドした試合だったが体力質
けかどうか 最後に逆転されてしまつた。しかしこの試合は双方と
も得点できない。30分コーナート
トックを得るも、ものにならず遂に
まつた。またこの試合は双方とも力が入って見ていても気持のよ
い試合だった。まだチャンスはある。
次の小田高戦にはがんばろう
る。次の小田高戦にはがんばろう

三位決定戦 小田高

六月三十日於県監督ローン

栄光 / 1-1-0-0-2 小田原

今日勝てば宇都宮行きが決定、敗ければだめとあって、両校背水の陣である。栄光試合開始後、栄光ペース良く通り押ししきみである。しかしなんとなく両校うごきがスピードでない。栄光しばしば

ゴール前押しよせるも、およばず

前半0-1-0のまま終了するかと思

われた29分R伊東よりあがつたロ

ビングをLW越智がまん中へもどし

それをRW渡辺がすばらしい対応で止め、一点を先行して前半を終える。これをもち応えれば宇都宮に行けるのである。しかし敵も次第に調子をあげ栄光を自分のペースに巻

きこんでくる。そして13分敵の工

ぶしてくるため、どうしても点に

1ス LWに突如逆サイの球が流れ、二二歩ドリブルして、ものすごい

シュートを30-40cmははなれて、二二歩ドリブルして、ものすごい

ゴールの左すみ上にきめた。と

に角す二二歩ドリブルして、ものすごい

セービングをかわして文字通りに角す二二歩ドリブルして、ものすごい

失のようにはまり、みな一瞬あっ

けにとられた程だった。とにかく

これで同点。さうに小田原右側から

攻めこみ20分Rのセンターリン

グをLWがヘンドで右すみにきめら

れ。この時主審は小田高のオフ

サイドを宣するが、線審に抗議さ

れ。これは結局得点となり栄光は再び逆転されたのである。栄光その

後全員攻撃にうつり、殆んど栄光

がキープするが、あせりのためム

ダなプレーが多く、敵も必死につ

小田原		EIKO
6	S	6
6	GK	3
3	CK	4
5	FK	3
0	PK	0
主審 鈴木氏		
線審 大西氏		
松田氏		

GK 佐藤(攻)
FB 青木山島東山田近田島藤智
HB 伊波吉渡村田佐越
FW

わが友サッカー部へ

ドナル・ドイル

►二年間サッカー部の試合には始んど観戦
にこられ、この度アイルランドにお帰り
になられたドイル先生のごされた文章
です。————►

私は「ダフニュ」の原稿をたのまれて最初少々こまりました。といふのは私にはサッカーについてのアドバイスをする程の資格等少しも無いからなのです。私はサッカーは大好きですが、実際にやるとなつたら全然ダメなのです。しかし栄光での二年間私は数多くのサッカーの試合を見に行き、栄光チームの上手なプレーを、同時に又下手なプレーも見てきました。けれども栄光サッカー部が「素晴らしい」とはたしかなことです。

私は君達の試合のやり方に付けて少々意見があります。この意見は私が二年間君達のプレーを見て得た結論です。

(一) ボールを速くパスすること。
。(二) ポールを、
。(三) パスすること。
。(四)

人に対するパスすること、試合の最初の20分間で力を出し切らぬこと。試合の最初に相手の強い所と弱い所を見つけ出すことは大変重要なことです。相手の弱い所がわかつたら、そうしたら全力を出して戦い始めなさい。

もしも君達のだれもが中二から高二まで週一回確実にゲームをしたなら、君達のチームは今よりはるかに強くなつてゐるでしよう。

ソフトボールの盛んな国々では次のような練習を行います。ロングパスを例に取れば、まず初めにロングパスの練習をします。これを充分に行つたらよいよ二ケームにわかれゲームをやります。

このゲームでは今練習したロングバスを取り入れて実戦に応用します。このようにしていよいよ他校と試合を行う時にはロングバスが無理なく容易に使えるのです。これと同じようにしてヘッドライング、ドリブル、ショートバス等も練習します。

最初言つたように栄光サッカー

部には素晴らしいファイトがあります。このファイトはきらし練習から得られたものです。しかし忘れてはなりません。この練習は

「次の試合」のためばかりにあるではありません。それよりもまるかに大切なのは長い試合のために、この練習は君達の人格形成の手助けとなつて いるのです。そ

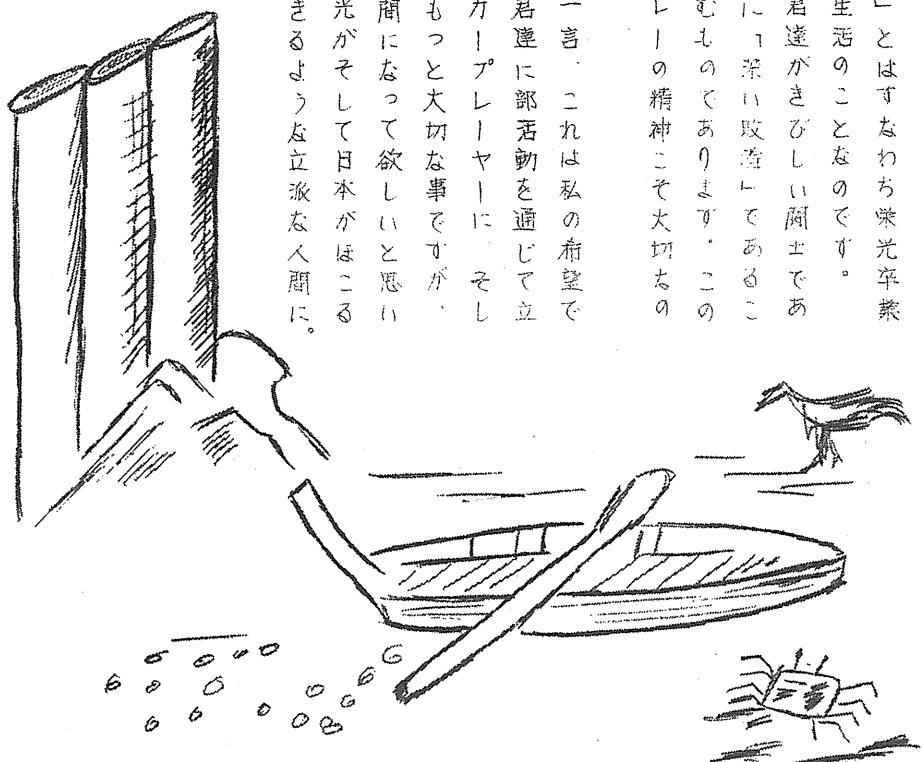
の「試合」とはすなわち栄光卒業

後の社会生活のことなのです。

私は又君達がきらしの間士であると同時に「潔い敗者」であることをのそるものであります。このフエアプレーの精神こそ大切なものでです。

最後に一言、これは私の希望で

すが私は君達に部活動を通じて立派なサッカーフレーヤーに、そしてともっともつと大切な事ですが、立派な人間になつて欲しいと思います。栄光がそして日本がほこることのできるよう立派な人間に。



合宿日誌



ことしの
ごはんは
よがつたテ

七月三十日（金）

十二期伊東

体操を行う。風がないためにむし
暑く、ヘトヘトする。八時半終了

今日からよいよ合宿だ。関東
大会出場がはたせなくて残念だが
国体、全国大会を目指しての合宿

だ。参加人数Kニ・ハ八・K一

十六人 〇八市村・大良・太田

七月二十七日（土）

午前 十三期相川

清水・新井
五時半集合、マットを部屋に入
れ、二室に分れる。

昨日の夜はあまりよくねむれ
なかつたが、特にあけがた野球部
の連中が、廊下をガタガタ、ベナ

六時半ミーティング

—合宿についての注意—

合宿はサッカーの練習をする為

の連中が、廊下をガタガタ、ベナ
ヤベケヤと、いとそうそうしく寝
おきが悪かった。

にある。規律を守る。自分の身
体を大切に、メシには文句を言
わない。自分に割当てられた当
番は必ずやる。〇八へは敬意を
もつた態度で。

体操をしてからメシを食う。主
食は米、副食はおみおつけと卵と
トマト、おかわりはできなかつた。

いよいよ練習、ドリブルシェー
ト多くしてから、早速試合を始め
る。バテル事多大なり。30分ハ一
フだったのでもつたくバテタ。

七時半頃よりKOKO校舎前で

スコアーは四一で現役の敗け。特に言うことなし、兄輩の方々はふえて、内山さん、阿部さん、まだ続々くるそうで、まったく頭にくる。試合の後もバックとマオワードにわかれ、何かやつたが食当りの為不参加なり。

午後 十二期越智

未だバテていない。今日は去年の合宿を考えて相当バテルと思つていたのだが……。練習はランニングを除いても去年より相当楽だつた。試合に出なかつた者は、なんにもしなかつたという事でグケをこぼしていた。合宿はバテて、動けなくなるぐらいやらないと面白くない。と中川は去年の合宿を思い出してもつがしがつていた。

実際、今日の練習は非常に軽か

つた。流してドリブルシートサイド、トラップ、ラッシュドキソク、休み、ジユースを飲んで、中三と試合、その間残りの者はヘンディングシユートとのリアリングをやつた。一一〇でようやく勝つたそうだ。その後、現役のレギューラーメンバーとOBとの試合をした。OBの大学のプレーに押され、一三〇で負けてしまつた。しかし大分バスも通るようになつてきた。

晩メシはハヤシライスだけのケイなものであつた。大分文句も多かく出た。ふたば屋に少し言つて置かれて、レギュラーメンバー以外の者の練習も、もう少しつづいた。午前中の樂な練習がら考えて、それには完全にバテさせられるのが強いたわけであるが、何かもの足りないよう気がする。

十三期太田

イングを行つた。レギュラーメンバー以外の者の練習も、もう少し考えてくれという抗議が出た。結果、チームを強くするには試合は

の合宿は知らないが、十二期の人々は物足りなそうで、十三期の我々も肩すかしをくつた感じであつた。練習第一日目でゲームばかりやり、その目的はあまり知らないが、我々にとってあまり益になつたとはいえない。ミーティングにもこの問題がでて、各自自由時間を見つけて自主的に他の練習をするように決まり、明日から全員張りきことだろう。

七月二十三日（日）午前
十三期青山

暑い！例の通り、体操、流してからドンブルシユート。それから今日は三人が一列になって真中の轍して出すトラップをしてすぐ百八十度回転して出すトラップをした。フォードのつっこみ、センターリ

ング、シューティングを選せたもの。バックスの一連へ大きく上げ、その後にアーチへ大きく上げ、そのまま飛んでくる練習。フォワードのシューイング、その後アーチへ飛んでくる練習。バックスはスライディングショットだんだん練習がはげしくなって行くようだ。がんばろう。

午後
十三期塙谷

ひさしぶりにバックスのクリアリングをやつた。先輩がペナルティエリア付近にすらつとならんでボカボカ蹴つている。これはバックスにとっていい練習だろう。また合宿中はじめてゴールキーパーの公開練習をした。

七月二十三日（月）午前
十三期中川

今までの練習は昨年にくらべて非常に樂で、ぼくにとつてすら何か物足らぬいくらいであったが、今日はかなりはげしい練習で物足りすぎてしまった。ドリブルシユートもあつさりあえて、すぐにフォワードのサヤンスシユート今

てしまつて市村さんにホールの空気をぬかしていたが、これからは今日菅沢さん、宇佐美さん、飯田さん、佐々木さんが、新たに合宿にこられ、佐々木さんからはスイカの差し入れがあった。また中山さんことボケさんが帰られた。

一人五分。その後が問題のバックのピンチキックで今日も高二だけ

ぼくは最初の五、六発でもうバテてしまい、後は意識もうろうであ

つた。ようやくおわって気がつい

てみると鼻血がかなり出でていたの

で後の練習は休ませてもらつた。

後は一対一、二対一、三対一、三

対二をやつていたが、かなりはずかしがつたようだ。

今年の合宿の飯にはまったく文句をつけるところがない。昨年がひどすぎたせいもあるが、今年は部でいろいろ買ひそろえていいのである。

今日、中等の対六中戦（県大会準決勝）があつて一一〇で勝つた。そうである。明日の優勝をいのる。今伊東君の家とホステンガラ合計

十二個のスイカのさし入れがあつた。その他いろいろのことがあつたがこれで失礼。

十二期成島

今日は六時半頃からうるさかつたので起床前に目がさめてしまつた。練習はドリフルシユートの後

で今年の合宿はじめてチャレンジエート、ピンチキックをした。残

りの者は明日の午前中やるそ�で

ある。中川が鼻血を出しながらよく奮闘していた。

今日は今年の合宿ではじめてバーチームでは現役が〇Bに三一二

で逆転勝ちした。毎日バーチームをやつしているのでだんだん試合運びがうまくなってきた。バスも時々、

逆サイに振るようなものができる

た。これはよいことである。といふようなことがゲーム後の〇Bのことば。

午後

十三期中村（文）

ものは、バカみたいに暑くて、や

合宿に入つてからの毎日といふことは、

りきれない。今日もカンカンとおでん様が黙りつけ、体操しただけでも汗ダクである。練習はいつもとたいしてかわらなかつたが、ただコーナーキックの練習をやつた。これはバックスがフォワードにせり合い負けをしていたようで、とてもおいしいようであつた。

十分間の休憩に例のとおり生三エースとおにぎりがでた。これらはとてもおいしいような気がする。

ゲームでは現役が〇Bに三一二

の差し入れが12個もあり、今晩はたらふく喰えるだろうと思つたら、全くの期待はずれ、昨晩よりちよつと多いぐらい。これにはいさかがつたりしたが、怪人の歌に合わせたつもりなのであろう相川と、ワニケのソイスト、中川氏のリンボー、メイコのキタネ工歌、ロンドン乞食こと新井正夫氏の「遠き山」にはおつづいての熱演、工ノケンこと太田成氏の「オヤマア、ほほいのほいともう一ぱい」など満場爆笑のうずにつつまれた。

合宿も残り二日となつた。この二日もたるまないようになんぱりとおそう。

七月二十四日(火)

午前 十二期樋口

マトモに一日練習のあるのは今

日で終りである。疲れているので朝はねむくてしかたがなかつた。練習開始野球部の試合のおかげで海側のコールにおいやられる。

いつもどおりドリブルにはじまり陸上のグランドで三人のバスをやつた後フオワード4ヤンスシュート。ジョージは調子がいい。マンケヤンもへりキツテやつた。それがすんでバックのクリア!。秋山

は、いい調子で九十回本こなした。青山もヘンドスライドのなりかけをやつて元気。ムーキンは元気がなかつた。相川はあいかわらずいいキックをする。すごくたのもしい。

代理のキーパーの練習もやつていた。青戸さててくれればいいんだが。きょうな相川のことだか

らうまくこなすだろ。このキヤンスシユートとクリア1の間球ひろいがすこしだれ氣味。もつとも炎天下、ただつたつてたまにく

る球をひろうだけだといえはもり

もないといいたいところだが、もうとジヤンジヤン声をかけて、苦しい立場のノバサレデル犠牲者を

はげまさうではないか。このあとながらしておわり。このナガシもも

つと工夫してただダラダラやら奉

いようにしよう。以上オシマイ。

午後の練習にそなえてヒル木をし

有効に使えばいろいろの練習ができる。これは何がこの合宿中精神的なものが一本ぬけている為什麼ではないだろうか。特に高ニが珠ひろ

てひろってやらねば高一がついてくるわけがない。皆自分が終つた安堵感が先立つのか？又今のが高ニで全体をりいどしていく（練習の時又試合の時又演芸会の時）よう

午後 十三 阪村田
特別の練習といえばFWが一度トランプしてからバスを送りその為衆屋にいたので音だけ聞えた。リターンをシユートすることとフリーキックの体調。最後に長い長い、苦しい苦しいインターバル。俺は腹が非常に痛く十の力の半分立ち実行していくのは光輩でも高人間が一人もいない。練習を組立てもない。それは全て高ニの肩一でもない。それは全て高ニの肩にかかるつていいのだ。自分がらナームは引張つていくよな高ニが出た時、チームも一つにまとまり試合の時技術+体力+ズケでてくるのだ。練習も残りあと一日、明日だけでも高ニのエネルギーを出しきり、この合宿の最後をもりた

て「いい合宿だ」とこの日ラエネ大会が行なわれた。ますますいかが割と多く出た。余は市村氏のを少し頂いた。林氏は一個半たようになんばろう。

と言つていた。中川の開会宣言により高一の新ヤンナツキヤ夕節の合唱から始つた。余は次の出し物伊東は俺の鼻をほじくりやがつた。我々のは割合面白がつたらし。伊東は俺の鼻をほじくりやがつた。編集部注一怪人のたもとから越督伊東兩君が手をだし、怪人はもでなかつた。インターバルをあじめてだつた。おやつに生ジュー首だけだしてやつた）。OBは何れ程長くやつたのはこの合宿中はも知らない伊田を相手に解任（怪人）について聞いていた。やつこスと西風がでた。食当専門の新井さん余はシャーペントーンでヨヨツと囁くと言いやがつた。

最後に余は大前氏と共にフトン蒸しにされた。

夜

十三期星野

七月三十五日 編集部

二十四日の夕やみ深くなつてか

午前中練習があつたが記事なし。

最後に

瀧水先輩

サッカ部の合宿を初めて外から見て即ちOBとして参加して気付いたことを書いてみよう。

第一に非常に雰囲気が明るく感じられた。高二・高一が親しく部生活をしているように思われた。これは試合などで密接に競り合っているからと思う。だが注意しなければいけないのはこういう点は必ずにしてだらける又はたるむといふ面に結びつくという事である。特に高一の人達は高二に対し信頼をもって貶従して部生活全般を推進するのに協力しなければいけない。次に今度の合宿はあくまで技術上達を目指したもので体力精神方に幾分欠けたものがあつたのを事実として自覚し、それを補う為には自分自身が努力しなければならない事を肝に銘じてこれから練習に於ても頑張つてもらいたい。

合宿になると同時に晴れ上つた夏空のもとで五日間も激しい練習をするのは確かに苦しいだろうけれども、いつかは君達のなつかしい体験となり又役立つものとなるだろう。

合宿ゴジツ。ア

ちらりほらり

○熱意

○混乱

バックスのピンチキックの苦し
さは大変なもので、終った後は誰
もが息も絶えくです。しかしそ
の中で食当費往着の新井君は苦し
さに耐えながら呼びびました。

「ホーイ（声にならない）」
食当〇〇××△△・集まれー。」
○戸田君の答えて曰く。
「そのものの色は?」
「シヤーベットトーン。」

ああこの熱意！
長さは?・

○カイジンとは

「30cm位 メタン系です。」

星野崇君の合宿日誌によると、
ランニングやピッチキックは?

「ランニングは2周、ピンチキ
ックは15分位やらせても死に
やしません。世のものは

○一事件

合宿の三日目、中村メイコ君が、
一週間ぶりに某所へ遊びた。某
所とは：

中学生のために

十二期 佐藤 政

何回やったとか何とか自慢しあつたのだった。

②栄光のグランドは狭いと言われるが、あれで案外広いものである。

特に中学生はそう感じるであろう。



うそだと思つたら、グランドに出ていいで、ボールを真中に置いて

中学生のために、と題して書くがむずかしいことは、今までのグランジュに、すでにいいがぜんので、尽されていることでもあり、又そんな事を書いても別に面白くもないから、ここではただ自分の中学の頃を振り返つてそれを書きちらべることにする。

①たしかが横須賀学院との試合が雨のために中止になつた時のようにおぼえている。我々中三部員はいなどと言つてやつた。『今日俺は

さきが気が抜けたように練習の開始を待ちながら遊んでいた。そのうちにグランドの真中あたりで、ボールを地面におき、すぐにけり上げる。つまりパントキックがはじまつた。たまにこういうことがあると、それはすぐにブームとなつてそれ以来そのパントキックなるものをやるもののがふえた。これが大喜びだった。しかしセンターサークルの真中からやつてバーを越したことはなかつたし今でもない。から毎々とはをしていつて何回も何回も蹴つたものだつた。そしてボールがバーの上などを越したら練習のはじまる前、ボールを、ゴールのところはもういかなかつた。練習のはじまる前、ボールを、ゴールから毎々とはをしていつて何回も何回も蹴つたものだつた。そして

中二の時入ってすぐ林吉にキー
バーの練習をさせられた。そして
ずい分すごい練習だと思つた。キ
ー バーの練習は確かに相当バテル
ものだが一方、調子に乗ると中々
おもしろい。これに中二の時たし
が十三月の話。太田さんにパンチ
ングの練習をさせられた。太田さ
んがボールを投げる。それを僕は
手で、モリちゃんが頭で打とうと
せりあう。興奮してくるとモリち
ゃんの頭をなぐることもしばしば。

そのたびにモリちゃんが頭をしが
める。上級生をなぐれた数少い思
い出の一つ。これ以来やたらとパ
ンチングがすきになつた。ボール
と頭を間違えてなぐつたことも何
度か覚えている。いい気になつて
やつていたらびどいめにあつた。
中三の堺高校と試合をした。ゴー

ル前にロビングが上ってきた。そ
れを僕と市村さんが止り合つた。
ボールに手がさわつたのは確かだ
が、そのつぎの瞬間体が宙にうい
たと思つたら一回転して地面にお
つこつた。すると目の前が真赤に
なつて頭は夢を見ているみたい。
これは夕方だつたから夕焼けだつ
たのか、いやたしかに頭のせいだ。
ホワは帰りの電車に乗るころまで
続いた。

④中学の頃は雨の日の練習が好き
だった。雨が降ると他の部がない
のにサッカー部だけあつた。これ
が又実に気分良かつた。グランド
へ出るとまず靴を水でぬらして足
をぬらし。次にシャツやズボンをよ
ぐす。早いうちにこうしないと後

んでよ、これるともつとよごしたく
なる。かくして練習も終つて部屋
へ帰ろうとする。その途中で色々
な連中が色々言い方で「きたな
い」との意味のことはをいう。こ
れを聞くのを又最上のたのしみ、
又名譽としたのだった。どうもろ
くな趣味は持つていなさいようだ。
⑤まとめ今まで何が何だかわから
ないようよくだらちい事を言つ
てきたが、要するに自分のやりた
いことをどこまでも徹底的にやれ
ということをいいたかったのであ
る。そのやる事がどんなことであ
ろうと構わぬ。単にサッカーで
なくつたつてよい。何しろ自分で
何かきめてその目標に向つて努力
する。これさえあれば他はどうで
もよいと思うのだが。

中 学 練 習 試 合

対六中戦

栄光 〇 [0 / 1 / 1]
〇 / 2] 3 六角橋

十四期 小菅恭彦

14期の初の試合。とがく弱い弱いと言われていただけに、皆自信に欠けていた。ある一人はガリをした。なんということだろうか、敗けるという方にかけたのである。試合前からこのような気力のなさをさらけ出していた。授業を終え、大急ぎで帰路をすませ、部屋に来

てみると、はやくも六角橋の連中は大盛りの教室に勢そろいしていった。何かの記念日で休校だったそうだ。すぐに練習が始ったが、いつもものように活気がない。試合開始直前、ムーランの話があった。

試合後に、あの時はああすれば良かったなどと思わないように自己のベストをつくせ、また何事もダメでいい。こうしているうちに遂に試合後には、あの時はああすれば良い。こうして、いるうちに遂に

一歩の大きなキック。敵の全員の緊張を上回るダッシュと、あつとうされる。栄光防戦一方。いくらがんばってみても押し返すことができない。六角橋の小柄なフォワードに対し、栄光バックスは体の大きいのが多い。それなのに一方的に攻められている。たまに

フォワードに近かても、ダッシュなくバスが通らない。バックスもダッシュなく球を奪うことができない。こうして、いるうちに遂に一点取られる。これだけ攻められていれば当然入るべき点だった。このままだらだらと試合を続けていくうちにハーフタイム。後半に入つても、点をもらうという気はかりあせつて、かんじんのダッシュがない。フォワードの攻撃も散発的で統かない。また一失敗され

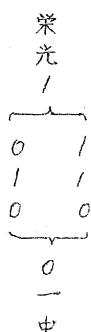
る。さらに敵は一点追加。結局二のままタイムアソア。敗けた。完敗だ。黒星を初試合にとつてしまつたのだ。一点も取ることができなかつたのだ。負けた原因は、ダフシユのなさであると言われた。雑誌の題名になぜ「ダフシユ」とつけられているかが、今はじめてはつきりわかつた。ダフシユ、ファイトに欠ける実につまりない試合をしてしまつた。しかし、意義のない試合ではなかつた。それどころか大いに意義のある試合だった。他校の実力、個人的にも、チーム力としても、それが自分達の考えていたものよりもだいぶすごいものだということはつきり知つた。この実力差を補うためにも、練習量の少ないことを補うためにも、他校を上回るダ

ンシユ、ファイト、チームワークなどの必要性がひしめく感じられた。とにかくこの試合は僕達に大きな反省を促した。

この大きな反省を生かし、十日間に県大会を目指してがんばろうと新たな気持ちをもつてグランド上の反省会は終つた。

つぎの日、練習試合という事もあって一中がある程度手をぬいたとも思えるが一対〇で一中に勝てたので皆の喜びは大きかつた。(へるに一三聖光・六中と戦つてはじめての勝星だがら)。

この試合、ほとんど一中におされつぱなしだったと思えるがバックスの捷闘で相手を零点におさえ事ができた。前半十分ごろ敵のゴールよりこぼれた球をフオードがバスでもって行き、失点がゴル前に出した球を下カッパおし



十四期 佐藤研三

対一中戦

えた次の瞬間、RW内村の猛烈攻撃でシユートした。十点ぐらいであぶなく欠点という後も再三シユートはあつたがものにならず前半・後半ともに終ってしまった。

この試合の感想というと何んどつても皆が非常に良く動いたといふことで、対六中戦の時にはみられなかつたような良かった事が沢山あつた。前にも書いた様にバツクス、アオソード両方に西日本大会で、反スローはどの様な時に取られるかも知らない者がいる様にも思われた。規則を知らないと言えば、上の失内君などいつもオフサイドをとられるが、知らなかつた古いぐらいすばらしく記憶がようだ。こんどの試合からはこれまでている為、確かな事はわからぬ反則をとられない様に気をつければ九十点ぐらいの所である。

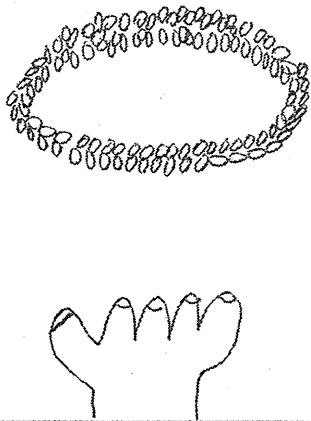
それに対してフォワードは、対六中戦の時よりはましたたが、どうもコンビが悪く、シユートも弱い様でありその変は県大会まである。)

には、何んとか良くしておきたいもりだ。点数をつけるとしたら六所だ。

純情

える事がまだスローゲーディングの時、どの様に動くかがわかつていない様で、反スローはどの様な時に取られるかも知らない者がいる様にも思われた。規則を知らない者は、上の中三と氷屋によること、とり分け、中三の悪童連が言えは、上の失内君などいつもオフサイドをとられるが、知らなかつた新倉君、折悪しく中三の指導者でよく練習に行くのは半分がこの氷屋が目的だとか。この日も練習の後他の中三と氷屋によろうとしたが、同じ駄であります高ニ佐藤君に見つかり無理に連れられ、純情な彼のこと、そのまま家へ帰されてしましましたが、ムーケンも罪作りなことをしたもの、新倉君残念さのあまり家へ歸っても眠れなかつたそう。

中学生の夏大会



第一回戦

ミード

第二回戦

対鎌倉一中

七月二十二日 於保土ヶ谷

栄光 2 1-10 0 鎌一中

立上り栄光はダツシユが全然なく少し押され気味で苦戦したが次第に調子をあげ、前半15分頃、LW矢内がミユート、これが見事にきまり先取点をあげた。又CFカッパのミユートをキーパーがパンチではずしたりして一中も善戦したが、後半カソバがきめ、完勝した。

第三回戦 対平岡中

前に同じ

栄光 2 1-10 1 平岡

栄光は午前中にやつたため、疲れてこの試合には今までにないアイテムとダツシユで六中に雪辱す

立上りから押され氣味で、前半の十分頃(?)ハンドからのペナルティをきめられ、先取点を奪われてしまつた。栄光はこれに奮起してか、二十分頃LW矢内が左45度からクリーンミユート、見事に決まり、EFカッパがきめて勝ちこまくりEFカッパがきめて勝ちこのまま押しきつた。尚前半カッパが顔をけられたが、たいしたことはながつた。

準決勝 対六角橋中

七月二十三日

於保土ヶ谷

栄光 1 1-10 0 六中

六中には初試合の時負けているので、みんなファイトを出していいこの試合には今までにないアイテムとダツシユで六中に雪辱す

ることができた。

前半十分頃 RW 内村が中へきりこ

んでシユート。それがバツクにあ

たつてはね返る所を I 福田がつ

こみ、右すみへきめた。その後も

よく攻め続け、またよく守った。

特に RI 佐藤が相手のエース4番を

徹底的にマークし、遂にフリード

けらすことを許さなかつた。後半

に、中二の菅原と野口が出たが、

動きはまだくよくながつた。後

半、栄光は押され続けたが、RB 新

倉 CH 宮内・LB 添沢等の好アタッ

ク・スライディングでことぐく

ピンチをきりぬけ、遂に前半の一

点を守りぬき六中を敗ることがで

きた。

決勝 対藤天一中

七月二十四日 於保土ヶ谷

一中 1-0 1-0 0 栄光

試合後にもいわれた事だが、六

中に勝つてたるんだか、疲れが出

たのが、皆動きが悪くダッシュもあつ

て、遂にタイムアウト、またして

も勝勝をさらわれてしまった。

この試合栄光は押され押され氣

味で、ゴール前をしばくおびや

かされたが、一中も焦つてシユート

をはずしたり、又バックスの好

トをはずしたり、又バックスの好

トをはずしたり、又バックスの好

トをはずしたり、又バックスの好

トをはずしたり、又バックスの好

トをはずしたり、又バックスの好

トをはずしたり、又バックスの好

トをはずしたり、又バックスの好

トをはずしたり、又バックスの好

メンバー

G.K 告川

R.B 小倉

L.B 赤沢

R.H 新倉

C.H 宮内

L.H 大橋

野口

R.W 内村

R.I 佐藤

C.G 中村

L.I 福田

L.W 矢内

得点

2

2

1

トを放てば、これがカーブして

右すみにきまってしまった。その

後栄光最後のファイトを出して押

し続けたが、RW 内村のシユートが

キーパーの正面をつく不運もあつ

て、遂にタイムアウト、またして

も勝勝をさらわれてしまった。こ

の試合を後から見ていて感じた事

は、一中が常にノーマークの位置

でバスを受け、又シユートを放つ

たのに対し、栄光はまた不正確

だつた。

この大会を通じて栄光は、得点

5、失点2であつた。わずか5点

で二位にいたのはめずらしいこ

とと愚う。

県大会を終えて

十四期 宮内恒雄

今日一中に敗け、県大会はすべて終つた。帰りに合宿により、スイカで慰安され、帰るころには崖壁に冷たい夜風が吹き、遠くの港の灯が海木タルのようにまたたいていた。こんな時、この大会を顧みるのには絶好と思い、ここに、色々とこの大会の事を思い出してみた。

第一戦シードで鎌倉一中と対戦。二・口で勝つには勝つたが、中三、フォワードの得点力の差さを暴露した試合だった。五十分間の試合中、ほとんどハーフラインをわらせなかつたのに、三点とほひどすぎた。敵バックスが、ゴール前にかたまつてしまふのに、まる

ともに正面をつこうとしたからで、もつと敵に適応してやることが大切だと思つた。二戦対平間、午前中の第一戦でバテたのがひどい試合だった。この大会で一番まずい試合だったと思う。味方バックへそれは私です)のハンドでペナルティーにより一失点。だがその後まもなくLW矢内のクリーンシュートきまつて、栄光落着きどんどん押し始め、後半にCFカツパー点とり試合終る。三戦対六角橋、栄先生まれかわつたよなファイト。

一番良い試合だったと思う。前半五分五分あるいは押され気味だつたが15分L・福田のシユートきまる。後半栄光六・四ぐらいで押されるが、六角橋あせつたので、後半はそのまま持ちこたえる。後半中二の菅原・野口を入れ余裕を見せた。この試合の勝因は栄光バックスの堅い守備にあつたといえるだろう。決勝戦対藤一、実力こそ劣つてたかも知れぬが勝てる試合であつた。フォワードシユート力のない試合だったとしても、又栄光兩ウイング(内村は前三試合は特筆に值する)がガツクリマタクされ、フォワードの機動力を欠き、CFカツパなどもこの試合には不調。又敵バックスも栄光バックスに負けじと、ゴール前でスライディングを敢行して再度チヤンスを失なつた。バックスもLH大橋の腰痛などで調子は下りマークが多少甘かつた。全試合を通じて言えることは、他チームに比べてフォワードのダツシユーバックのタツク

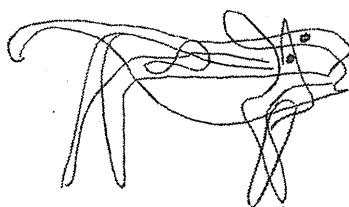
「ラップ、バツクのキックなどは
劣っていたと思われます。タイム
アップではつきり負けたとわかっ
た時も、何か亞然としてしまい
「悲しい」「くやしい」というこ
ういう場面の定石の感情が胸にお
しませてきたのは夜道を帰る頃に
なってでした。今後は各試合の反
省会で言われた事をよく頭に置いて、
高一に負けずにガンバロウ。
中二も中三に負けるなよ。

ぼくは、小寺君と自転車で保土ヶ谷グランドに行つた。八時につい
たがまだだれもいなかつた。しば
らく休んでいると、中三の連中が
やつてきた。すぐ着がえて、軽い
練習をした。やがて試合開始、前
半、どちらもよく戦い、栄光がま
ず一息を入れて、前半を終つた。
いよいよ後半、ついに最初の試合
に出る時がきた。レフトハーフの大
橋さんからユニフォームを受け
とつた時は急に体がかたくなつた
ような気がした。ホイスルが鳴る
と同時に敵は、すごい攻撃をして
きた。敵アオワードのパスが、す
ぐ目の前にいる。敵ライトイナン
ーにわたつた。無中でアタックし
ようとしたが、その時はもうボーラ
ルは他のやつにバスされていた。
しまつたと思ったが、後にいた、
味方レフトバツク赤沢さんがその
ボールをけり出していた。その後
も、何回かねがれたが、みち赤沢
さんや宮内さんが、けり出してく
れただので助かつた。後半も残り少
なくなると、敵はものすごい攻撃
を見せてきた。どその時、すうた
いでかいやつが、ものすごい顔
をして自分の前までドリブルして
きた。その時少しこわがつたが、
やけくそにアタツクしたら、バシ
ツとぶい音がしてボールはみご
とに外に出た。しかし、足の先が
相手のやつは、平気な顔をしてい
たので、にくらしくなつた。真夏
の太陽はじりじりとてつていて
ものすごく暑い。ぼくは、早く木
イスルがならないかと、それはか
り考えていた。急にピッピーと待

初試合にて

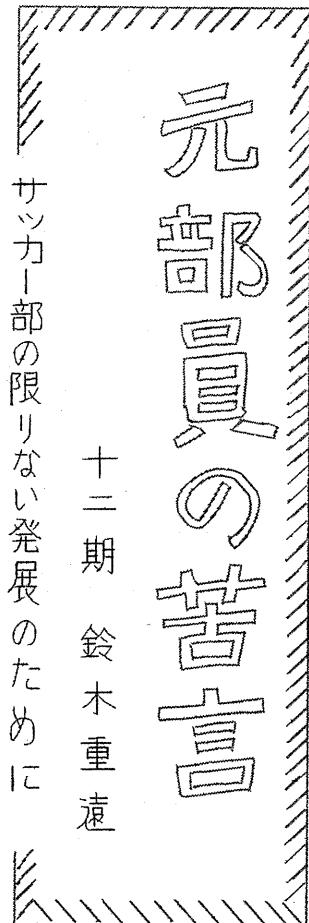
十五期 野口明男

望のホイスルが呑った。やつと終つたか、と思つた。結局、一一〇で我光学園が勝つた。後で反省会をやつた。その時、みんなからキックはよいが、まだ「アタックが弱い」と言われた。ぼくは、「かたくなつていたせいか、あまりよく動かなかつたし、キックやアツクも、よかつたとは言えない」と思つた。次に試合に出た時は、かたくならず、おもいきりやりたいと思つた。



元部員の告白

十二期 鈴木重遠



先日僕は「ダッシュ」編集長の依頼により筆をとることにした。もとより僕は報筆家ではない。これを頭に置いてこの記事を読んでもらいたい。ついでいいといつは何物だ」という声もあるうと思うので簡単に自己紹介をする。入学以来十二期生で、中二の時一年間サッカー部に所属していたことがある。
さてここで僕は現在のサッカー部員の先輩、後輩の関係についてながつた。つい先だっても中三の

とりあげたい。下級生の上級生に対する態度である。サッカー部は上下級生との関係は非常に密接で、上級生が下級生に親切なのははたでみていてもうらやましい。しかし最近親しいというより慣れ合いになってしまつてしまふに思える。部員の中には先輩を呼びすぎてられた時には腹が立つてたまらる者もみられる。古いことだが去る年部室で「ジユウエン」と呼びす

今からがボストンのお親父さんに失礼な言葉使で話をしているのにぶつかつたので一寸注意したが当人は別にどうにも思っていらないようである。これは上級生が悪いのだと思はいちがいにはいえないが部内にそのようない雰囲気があるから

高二諸君、下級生を規律をもつて導びきなさい。中二、中三諸君先輩は友達である前に指導者である。このことを自覚しなさい。

うである。だとはいえないが部だと思は。それはまさに上級生の責任だと思う。上級生下級生の関係が密接なのは結構だがそれがために礼儀を忘れるということがあつてはならない。ましてそれが先生や一般に人々に対してもそうであるならもつての他である。これ

は部の向上のための必要条件である。正しい礼儀なくては上下の正しい関係は生まれないし本当に立派な部は出来ない。礼儀正しい規律が出来てこそすばらしいチームだと思ふ。それはまさに上級生の関係だと思は。それはまさに上級生の責任だと思う。上級生下級生の関係が密接なのは結構だがそれがために礼儀を忘れるということがあつてはならない。ましてそれが先生や一般に人々に対してもそうであるならもつての他である。これ

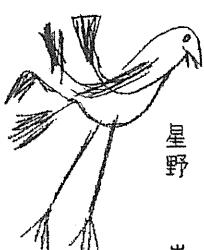
トピックス

サッカー部員諸君、名実ともに立派な部となるように。

この意氣

十二期

星野 崇



中村メイコが運動会のロード・

レースに出る事になったのは、まさにピックニユースに倣するであろう。ここで後世の諸君に断つておくが、中村メイコとは、当時全盛の芸能家中村メイコの事である。我が誇るべきサッカー部の十分たたが、伊藤君は、代表権こそその三期の猛者共の一人、中村メイコの事であつて、本名中村光世である。

事は、運動会もさし迫った十月三日の事であった。我がサッカーワークが生まれるのである。高一

部は万人の認める如く、毎年運動会とが、今は無いが競歩今等には必ず上位を占め、校長の称赞的となつてゐる次第であるが、今年も例年に違はず、高一高ニ高三から總勢二十□人がこのロード・レースに出場することになったのである。前年は山岳部の青木にタイトルを奪われたので、今年は絶対に奪い返すそと、面々大いに張り切り、既に一緒に二回練習しているのである。高二の佐藤・伊東、高一の青山・相川・戸田、それに高三の宮坂氏その他大穴小穴、ターフホースがすらり。が本命とまで行がないので青木攻略に懸命であるその最中、一人だけ、丁度は出ねえんだ、俺が出たらサツカーリー部の恥だよ。あんまビケなんか入ってきたら大変だよ。六なんかおれ

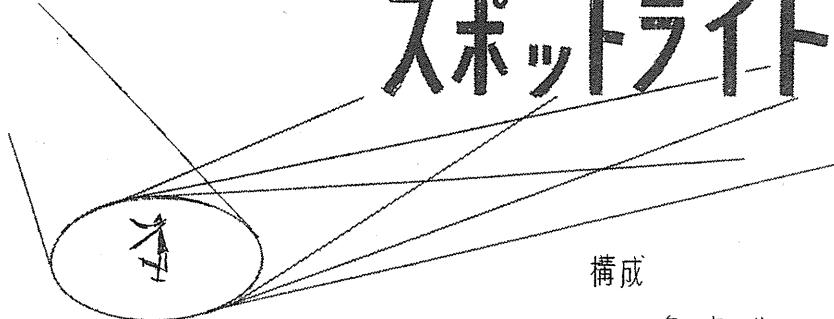
より速いんだもん」と最後までダーツをこね、まわりがら、愚たらべトウをつかれ、すっかり腐つてしまつたが、その騒ぎもおさまつてから、うしばらく立つと「俺出るぞ。」と言つて黒板に自らその名前を書いたのが、その中村メイコその人であつた。期せずして万才三鳴が部屋を抜かんばかりにわき上がつたのである。

諸君、もし君達が何かの困難に何かの壁に遭遇した時、この一事件を思い出して、何うかの勇気何らかの意氣を感じてくれたならば、我輩は先輩として何も望む所がない。かの中村メイコ氏が、足が違ひ遅いと言われてきた中村メイコ氏が多少なりとも周囲からの圧迫があつたにせよ、レース出場の決

意を、自ら実感したその負けじ魂を諸君、思い出すだけでもして欲しい。個人生意氣に感ずるとよく言われるがこの気力、思魂、ファイトの塊の宝庫サツカーリー部の諸君よ、せひとも胸を広げ、翼を広げてこの宝玉をみがき上げて欲しいのである。



スポットライト



構成

田 島 卓 地

= II 期 =

諸君は先号のダツシユ話の痘
楓の女性を憶えているだらうか。

その文が記憶の片隅に残つてゐる
者は鑑賞員のユーモアを想い出し
てニヤツとするだらう。健志座の

諸氏は先号のダツシユ七十頁をひ
もといて見たまえ。冷やかに笑う
一女性とそれに舌を巻く栄光の悪
童共の姿が目に浮ぶだらう。

今日はその話の主人公で、冷凍
室のモナリザ的冷笑？の持主であ
るY校サッカー部マネージャー兼
スコアラーの山本さんに登場して
もらつて彼女の紹介とY高訪問と
をやることにする。（尚作文は彼
女の自己紹介。インタビュ―は人
物登場と他校訪問の両主旨を盛り
こんだ。）

私もサッカー部員です
山 本 マ サ ヨ

期間も、長さも、なんでも自由
に、何か書いてほしいと言われた
のですが、その動機があまり良く
理解出来ないので、純粋な男性の
スポーツであるサッカーに、女性
のスコアラーとは珍らしいといふ
お考観であろうと思つておきま
す。しかし、Y校では、他に、ラ
グビー、野球、バスケット、体操
などが、女性のスコアラー、マネ
ージャーを持っていることを薦し
ておきます。

まず入部の動機。別に動機とい
うほどの大げさなものもないので
すが。

ちようど、二学期の中間テスト

の何日か前、クラスのサッカー部

員に、やってみたいかと持ちかけられ、軽く受け受けました。

学校にも、どうやら慣れてきて、放課後、まっすぐ家に帰り、翌日、また学校へ来て、勉強してまた……そんな平凡な毎日に、何分ものた らず、つまらなくなってきた。そんを時だったものだから、この生活に変化をつけられるなりな んて、利用する気持ちもあつたし、興味もあつたので、入部したわけ です。部員は、私がそんな、ケヤ ツカリした理由で、入部したなん て知らないから、きっと、存じて物好きな娘だろうと、うわさをし たことでしょう。いや迷惑がった カナ。来の定、毎日に張りが出て、頬が腫るるよ ました。あまげに、一石 長屋(部室)の前を通るのですから。

二鳥友わけです。

この間、窓に張ったビニールも

行事は、第一試合には一緒に に行つて、スコアをつける。もちろん応援も。でもまだ試合に慣れていないので、すごく、間の

ぬけた応援。それから、他のいろいろな用事。例えば、予算報告や決算報告書の原紙を切つたり、ス ポーツ店に行つたり等、また、春休み、夏休みの合宿には、お手伝

いしてくれる人を探して、おさんどもします。現在、部員は、きつかり十一名なので、新入生勧誘の仕事も、重要なことです。

もちろん、勉強にましさわりがあるようなことは、ありません。

若くて、若さを持てあましてい る連中なのですから、仕方がないですね。明日は、行つて、きちんと直してあげなきや。

こういう仕事を、とても楽しいんです。そして嬉しいんです。合宿の時には、部室の大そうじをしなきや。

早く言えば、小使いさんですね。

インタビュ―

現在サッカーのどこが気についていますか。

たら女性の私達近まれませんわ。

C. 魅力と部生活の両立は、

○ インタビュ―筆者と三十分、

(尚インタビュ―での当方の

感想も隨意に付加した。)

入部以前サッカーとはどの程度接していたか。

体育の時間にしばくサッカーをやらされました。ホールは硬いし、おまけにうまく足に当らないので、はれ上がる事もありましたよ。(サッカーは男だけのスポーツだとばかり思っていたのだが……)又私の友達が部員だったのでも放課後の練習はちょいちょいみていました。

入部の動機を詳しく。

或る大学の女性マネージャーに興味をもった丁度その頃入部を勧誘されて入ったわけです。

広いグランドを縦横無尽に走り回るという雄大さ力量感が素敵ですね。又引きびしいルールの下で自分の力を最大限に出すこれなんか雑草の力強さと相通ずる隠れた魅力ですね。(こんな事を言うあたり、同じ冷たさでもシヤーベットの味でもなく、ぶつかき氷の味がする。——舌先で淡く消える味でなく胸の奥の方にカケンとなる様な味の方にカケンとなる様な味の持主。という事。)

D. 部の予算は、
学校から三万位もらいます。
他に先輩の寄付等があるの
で何とかやってゆけます。
部費は一ヶ月百円です。

E. 部生活についての諸質問
毎日三時間近くやります。
Q. 練習時間は
A. 部員や部はどうですか。
一人くは皆いい人達です。
けれどもたん彼等が集つ

封建的ですね。言葉づかい

なんかまるつきり違うし全てに於て上級生は命令的ですね。だから心と心のふれ合の部の和に少し欠ける様です。(栄光だけはその点

でメグマレテいる。) す校内での部の占める力は。

野球やボート部の力が強いですね。おまけにサッカー部は(現茅ヶ崎の)池田先生が抜けたので全くダメですよ。

普通部員とはどのようにやっていますか。

別段皆とちがっていません。

男の様にふるまつています

ながら。
全国大会予選の対小田原に三

対ニで負けた時、アーレーヤーの

疾を見て驚きを伴った感激を味

わいました。苦心するのは薄暮

けど試合に勝つてくれるとそんな苦心なんか吹き飛んでしまいますよ。

作文中のルールに強くなつて一

石二鳥云々のくだりの説明を。

も遠征にはどうしますか?

学校が許可しないと思いま

す。
サッカーをやる人種をどう思いま

すか
サッカーをやる人だけがスポーツ

いですね。

スコアラーをやつての感激談、苦談を。

何んでもそろつてるんです。(へいやはやここまで我が部と一緒に僕達の部室ときたら、聖書

とシヤツが同居、グローブ、ベス、テニスボール、ソフトボール、バスケットボール、バドミントンの羽軟球、ガサハンガーミントンの羽軟球、ガサハンガーガクブチ絵具一式全てどこからまぎれこんで今は部の備えつけとなつてゐる。)

【結び】

部誌の発行等やつて大変いいなと思ひます。部内の和や部員の教養を高めるのに役立つてくれますからね。

このY校訪問でY校サッカーデ部分をより良く理解していただければ幸いです。

先号のダンニユックの種々欄の

自分の記事を読んで彼女は「う音
いました。」そうだわきつとこの通
りだったでしようね。なにしろか
なり頭に来ていましたから、だけ
ど愉快ね。更に今や分りですって」

この様に彼女は編集員の酷評と
違つて明るい活発なサッカーマン
ならぬ、サッカーレディーという
感じを与えてくれました。

十周年記念行事

今年はサッカーレディー部の創立十周年
にあたり、それを記念して先輩も
交え、恒例の部内都市対抗をやる
ことになった。日は9月30日(日)人の司会により、自己紹介をし、
天気は快晴。先輩も8、9、10期合わ
せて10人程来ていただいた。まず
試合はフオワードを先輩で回める
横浜と、これ又ごちやくととり
そろえた横須賀の戦いは横須賀必
死の追撃およばず、大前さんの活
躍による横浜の勝ち。

それがら大前さんの妙なるアコ
のアコーデイオン・時々・スース
ースックと大前さんにふさわしい
音を発するのでみなそつちに大喜
びだった。さて例のごとく怪人が
国歌をアコーデイオン伴奏つきで

横浜～2-1-1
2-1-2～横須賀

さてたつた一試合おわった所で

独唱した後、再び試合開始

湘南～1-1-2
3-1-1～横須賀

この試合で太田さんは湘南宮内

君のアタックで負傷退場、ために

太田さんには後で「イタカツタデ賞」

宮内君には「アタック賞」が送られた。

又後半横須賀ゴール前を流れる球

をはつーとゴールにきめたものが

いる。「見事」と思ったところがそ

れは横須賀の山口修マイ君であつ

た。彼は後で失点賞をもらう。又

二回つづけて一点差に立いた横須

賀の監督太田君のクヤシがること

しきり、ために「4ヶ賞」が与えら

れる。

いよいよ決勝戦。みな緊張の時

とよく見ると横浜LB戸田君の姿が

見あたらない。あきたきた、かや

のやぶからごそごそできました。くも破れた中村メイコ君は「メイ

ナショナル・ワシントンクラブ」に

監督賞」その他もちろんの賞があ

頃を出して いたのです。もちろん

彼には「ユーモア賞」がおくれま

した。

湘南 1-16
～2-12 横浜

大接戦特にこの試合は決勝にふさ

わしい好試合。しかし湘南のねば

りが功を奏し、とうとう二勝〇敗

で優勝を遂げる。その後表彰式が

あつて、椅子の上にはり切つて立

つて賞を渡たすキヤアテン伊東君

に飛ぶ野次が「オイ、立てよ！」

又前述の他個人賞として「最多

得点賞」が清水さんに、又決勝で敵

バツクを三、四人ごぼう抜きにし

てシユートした湘南吉田君に「ブ

アインプレー賞」、メイ指揮おし

佐藤研三君のカメラにおさまる。

例のごとく「ケーブル」とやつ

て。かくして今日一日の日程を全

部終えた。

それからもう一つ大事なこと、

殆んどの観客員にとって初対面の

三期生ピカさんこと加藤さんがい

うした。もう立派な社会人と言つ

た感じの先輩で、みなを前に立ち

着いた調子で話をされた。聞く所

によれば加藤さんは「猛烈」という言

葉が好きで、猛烈なファイト猛烈

なダッシュそして最後に猛烈な病氣

をされたそうだが、今はその面影

もない落ち着いた物静かな紳士で

あり、サッカー部がらもずい分色

国体県予選

対相洋 4 - 2

8月19日

対法政 4 - 1

8月20日

対湘南 0 - 4

8月21日

8月22日

- 一回戦シード
- 二回戦対相洋

8月19日於県営クレー(園)

栗光その後もしはしば攻めこまれるが、何とかもり返しはじめ、クルW渡辺のスクートイングをRI佐藤L吉田にバス吉田そのままシュー

栗光 4
1-1-1
3-1-1 又相洋

しかし相洋その後もハーフ中盤に押ってきて、栗光あぶないまま前半を終わる。

一年の第三目標である、国体予選なのであるが、合宿から一ヶ月

近くたつていいるので、例年のよう

に、あまり気分の盛り上がりが感じられない。特に第一戦の相手相洋はいつも栗光が楽勝しているので、ことさら盛り上がりが乏しい。

この日は台風12号の影響で、風も強く、時折雨もぱらつき、コンディションは良くない。開始後2分相洋RWドリブルで攻めこみ、ショートがポールにはね返ったところを、さらに押しこんで、栗光先

後半、栗光は今までのだらしさに較べ、次第に調子を取りもどし、押し始める。そして14分RW越智のコーナーをRW渡辺がヘッドでもどし、それをRI佐藤がヘッドできめ、ようやくりードする。さらに19分再びRWからのコーナーを敵バックスが返す所をCF村田がサイドできめ追加点をあげる。その後一進一退の状態になるが、時間まぎわの28分攻めこんだ相洋は

RW が、ゴロできめ、一点差にすがりついてくる。しかしその後 29 分 萩光 CF 村田がドリブルで切りこみ LI 吉田にバス吉田ドリブルしてシユートをきめ、ダメをおした所で時間。どうにか勝てたが、精彩を欠いた試合であった。

S (攻) 15 (1)
GK FB HB FW
藤山 東山 戸伊秋川渡辺(岸)萩田吉田吉越智

RW が、ゴロできめ、一点差にすがりついてくる。しかしその後 29 分 萩光 CF 村田がドリブルで切りこみ LI 吉田にバス吉田ドリブルしてシユートをきめ、ダメをおした所で時間。どうにか勝てたが、精彩を欠いた試合であった。

S (攻) 15 (1)
GK FB HB FW
藤山 東山 戸伊秋川渡辺(岸)萩田吉田吉越智

12 分 萩光、RW 渡辺ドリブルからようやく 18 分 LI 吉田ドリブルして割りこみ RW 渡辺にバス、渡辺さらにはドリブル CF 村にバス、さらに LW にバス LW 越智そのままシユート先取点をあげる。しかしその後法政二おしはじめ、ついに 26 分 CF と RI に攻めこみ、CH 秋山ともつれるがそのままおしゃまれ、同点にされる。そのまま前半を終える。どうもこの前半戦が続くようだ。

12 分 萩光、RW 渡辺ドリブルからようやく 18 分 LI 吉田ドリブルして割りこみ RW 渡辺にバス、渡辺さらにはドリブル CF 村にバス、さらに LW にバス LW 越智そのままシユート先取点をあげる。しかしその後法政二おしはじめ、ついに 26 分 CF と RI に攻めこみ、CH 秋山ともつれるがそのままおしゃまれ、同点にされる。そのまま前半を終える。どうもこの前半戦が続くようだ。

あせつた法政、全員攻撃をしかけ癒命によせてくるが、バックス持ち応えそのまま時間となり、いまよ準決勝進出となつた。

あせつた法政、全員攻撃をしかけ癒命によせてくるが、バックス持ち応えそのまま時間となり、いまよ準決勝進出となつた。

S (攻) 1 川 4 3 (1)
GK FB HB FW
藤山 東山 戸伊秋川渡辺(岸)萩田吉田吉越智

S (攻) 1 川 4 3 (1)
GK FB HB FW
藤山 東山 戸伊秋川渡辺(岸)萩田吉田吉越智

○ 準々決勝対法政二

8月20日於県喰ローン(墨)

萩光 3 — 2 — 1 — 0 — 1 法政二

大体中盤あたりで試合がつづくが、萩光昨日よりは動きが鋭い。

双方とも幾度か、ゴール前までつめよるがどちらものにならない。

○ 準決勝対湘南

8月22日於県喰ローン(晴)

萩光 3 — 2 — 1 — 0 — 1 法政二

大体中盤あたりで試合がつづくが、萩光昨日よりは動きが鋭い。

双方とも幾度か、ゴール前までつめよるがどちらものにならない。

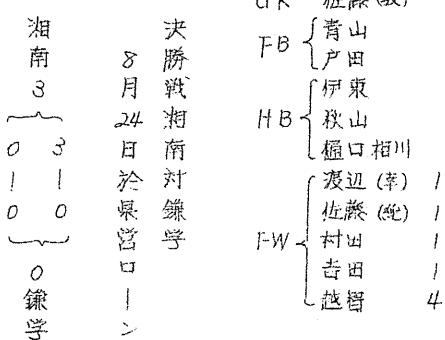
萩光 0 — 0 — 1 — 2 — 4 湘南

萩光 0 — 0 — 1 — 2 — 4 湘南

今日の相手湘南は、関東大会予選にも優勝し、名実共に県下実力

No Iで特にコーナー鎌本氏の指導によるチームプレーは他チームをはるかに引きはなしている。だから今日勝てば、国体出場が濃厚になるわけだが、その割にはみな元気がない。始まって最初のうち LW 越智を中心敵ゴール前につめようが、そのうち内敵FWオードの早いパスに栄光バックス乱れはじめるマーカーについていりず、全く湘南の思うままになる。そして CF 分湘南は RW が真ん中へ流し、それをフリートの CF がきめて先行し、27分には右からコナーを混戦中の LH がヘンドできぬ、追加点をあげる一方栄光も CF ↓ LI ↓ LW のコースでしばしば攻めるが、ものにならず、後半に入る。

後半に入り湘南フォワードは調子づき、RW - RI - CF - LI というパラメータで素速いので、カットし得ず危い場面が続出し、ついに14分右から真ん中へ流し、ゴール前CFのシュートを、栄光バックスクリアーリーするもおよはず、ゴールインにつづいて15分左からのコートナーを CF がきめついに4点のリードをうながす。一方栄光FWオードのパスは SH と FB のポジショニングでかまえの厚い湘南バックスにささえられついに無失点のまま終る。



対湘南戦に思つ

一 高校生

俺達は負けた。完敗だとは言わ
ないが、今さらどうこう言つても
しかたがない。準決勝での敗戦だ
けに、練習試合で負けた時よりは
もっと痛切に悔しさを感じる。そ
して又、たとえ準々決勝であつて
もそれは同じ事であろう。やる試
合全部勝つのは困難である。そし
てそれは、殆んど不可能に近い
しかし不可能ではない。現に先輩
はそれを行つてきた。そしてその
結果、関東大会出場の記録も生ま
れた。

敗北は、俺達の非力を意味する
かも知れない。だが俺はそうは思
わない。俺達と奴等とは、多少の
差や違いはあるても、実力は互角

である。ところが、俺達が敗北の
終局に至った現実は、俺達の欠点
を意味している。つまり、俺達に
は何かの欠点があった。もしその
欠点がないとすれば、悪かつた点
問違えた点からも、たとえば、
俺達に勝利があつたろうから、も
しかし、勝負の世界の現実は厳しい。

又、敗北は眞に悔めである。だが

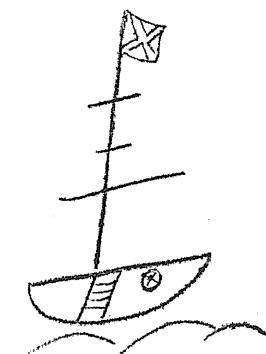
俺達は、俺達の愚かの意を直

さなければならぬ。そして、二
度と敗北の悔しさを味あわないよ
うにするのだ。

栄光 8 — 4 — 0
— 4 — 0 — 0 三水島

○二回戦対横須賀学院

栄光 13 — 6 — 0
— 7 — 0 — 0 横須賀



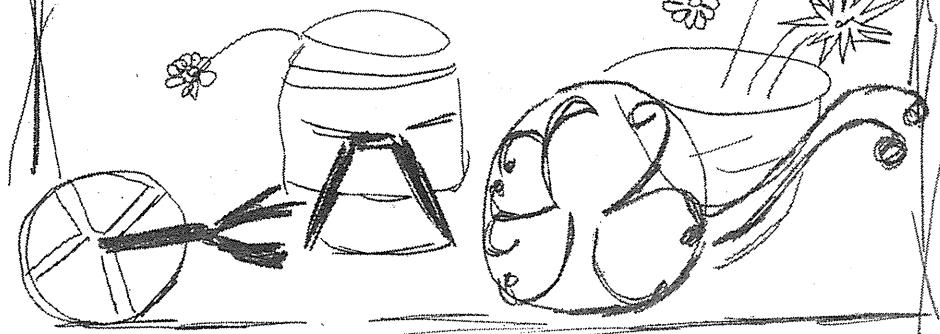
三浦半島大会

7月15日於栄光学園・快晴

○一回戦対三水島

この通り栄光の圧倒的勝利で優
勝したが、栄光の試合態度良くな
く、余りあと味の良いものではな
かった。又三浦半島の他チームの
発揮を促すものである。

ごしつぶ



○残酷物語

シユートライクの練習中、後から蹴った水桶が前にいた〇メ君へ。うだい。手にされていたのは何がある。〇メ君ゴール前で倒れた。り倒れる。皆我慢せりよ。ぐるが一人たりハツクスを被給ひをしていくと、団々して△君のとるつて曰く「オレの〇メどつが当つてしまえよ！」じやまだがう。あゝ無気。

○頭と酒が

アタックの練習中、受けるはイツベケ。当たるは轟口。トイクゾンコイツビタダメー。コケンレが同様して、代りに間違ひってやぶつかつたのは足と球ならぬ頭と頭であった。

○臭氣止め

今は栄光にいらつしやらないがサツカーレがすい今お世話になつ

た塚田先生、ある日部室の入口に立たれて「これをふらさりたらどうだい。手にされていたのは何と便所の臭氣止めであつた。

○伊東君奇香氣

あるのどか志摩の白の山三絵何の時間珍らしく現キヤブランの伊東君が自分分つ胡達を笑きに裏板に出る。ところがうつかりして手もと狂いキヨトクの箱をひつくり返してしまつ。袋つと後へ行きき。鼻歌なんぞ歌しながらホウキとおりとりをもつてきて。午ヨトクの輪の掃除している。問うる者ココイツビタダメー。コケンレが同様して、代りに間違ひってやらせてし。又しハリあんだからやらせてし」と言つてさがるい。ところが掃除終つて、いざ解き始めようとする。何とついていまい。

タヨークがもう志く志つている。彼は突然教室から消える。先生もあつて取られる。今朝して隣の教室からタヨークを次山もうで帰つてくる。こうしてや」と

の見いくと解き終えた後の先生の講評「この問題は簡単では、准でもできるね」と

でさるね」と

○ゲンキンな。

ボニシヨンはインナーの中ニ×
民一中ニ連に「お前ボニシヨンナ」と

ハーフです。」「そノガガんは
れよ、お前は?」「セントラーボウ
ードです」「フラン、お前泰賀あ
るよ、うまくなるよ。じやあお前
は?」「インナーです。」「そう

じやお前あんまりうまくないよ。

○腰
某自転車屋から「サツカト部で
す」と言ってゴムノリを買った領
收書、「ゴムノリ代助円正に領收
致しました。○メ自転車店。栄光
作家部殿。」

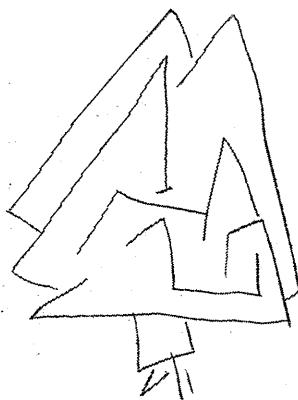
○腰
練

「今度中ニ四人入つて五人やめち
やつたよ。」

「良かつたね。一人ふぞたじや。」

○腰
対希望者登場の後グラントでは
○キ、今ガイだよ。

真っ赤なミネオを着た外人チーム
が試合開始した。さすがに強さは



目賀いに行つた山口修々イ君。自転車に積んでいた時、水屋のオッサンにアメテーグレと呟かれて、ソソメタクながつたう覺えた。」「まるでトーガランだね。」

一トをムメ君よせせいのに「オシモあんぬの差見て「なあ」それじやあまあを聞こえ青山君「それじやあまあ

○家路で

創立記念祭の準備でおそくおつた高ニのサンカ館員連……もう

まく暗になつた海岸せいの道をいそそいりると、一人の修道士の人
がやつてくる。勢い良く「さよならうつ」とするとその人の答えで
「おそれござります。」

合宿のおばさんより

金子スミさん(校内寮)

朝夕涼しさを通り過ぎて寒さを
肌に感する今は此の頃サツリ一郎
の皆さん元気でトレーニングをし
ている事と存じます。合宿の時の
感想是非にとお願いされます。

ながら参考までに以下を取ります。

この頃の部員あまりおとなしすぎ
て冷たい感じがする。もつとはぐ
らかの方がいいと思う。

だき気持よく動く事の出来るのは
サッカー部の皆さんいつもながら
力でおはさんくと言つて登のオ
カズは何か夜の食事は何かと聞か
れる度自分の子供の様な気がして
うれしい五年間を通じて始めの年

に持つて来て人を馬鹿にした事を
言つたので腹を立少し怒つてやつた。
今年は怒りの日に私の家までお礼

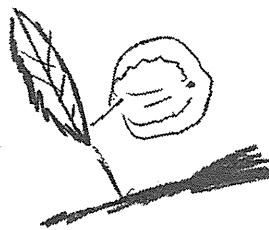
るが名前はわからない。今年は来
ていなかった。こんな言葉で懸い
が組のホス見たいでした。其の後
夜食事の後一番おそらく返話をした
りしてるので其の組だけ待つて
中々片づかなかつたこんな事も
あつたボスを怒つたのでわざとし
たガフイにしたが其れはわから
ないが食器を十位かたく重ねて洗
う時取れなくて困りました。折り
よく通りかかった桜野先生の與さ
んに手伝つていただきました。其
の後時々注意してもするのでほん
とうにくやしかつた。其の部はサ
ッカーでは有りません部の名前は
わかつてひまですが其れはひめてお
きましょ。

何だか胸がいっぱいになりました。
今年も運動会も近づきサッカー部

員元気な所を見せて下さい。

来年も合宿が有りましたら気持よ
くお手伝いをさせていただきまし

て下さいね。良い事悪い事いろいろ
お伝えしていただきまし



わが輩が国鉄横須賀駅についたのは9時5分過ぎ、予定を5分オーバーしただけなのに次のバスは9時40分までない。9月23日の日曜の朝のことである。相手防大は光榮を相手にいつも苦戦しているので今日は一軍を出し、又林吉も出場してくれるそうだ。とに角バスも無事横須賀駅を出発、海岸やら坂道を通つて10時2分に防大着、

あまりの広大にどこがどこだがわからなかつたが、うろうろしているうちにどうにかサッカーグラントを見付けた。もうみんな練習を始めている。わが輩も大あわてにあわてて着換えすぐ練習に加わる。いやそのグランドのせまいことはまだしも、たては特にひどく横はましく、ハーフラインまで下がるの

バスクスがシユーティングをしようと、ハーフラインまで下がるのだがゴールはすぐそこ。そしてこのグラウンドで40分ハーフの試合をするのである。今までふつう30分ハーフしかやっていないのに、どうなんことに志るのやら。さて予定より早く10時20分いよいよ試合開始

栄光 ～ 7-10 ～ 防大

相方一進一退であるが栄光やや優勢、シユートに於てそれが表われれ、防大は殆んどシユートがないのに、栄光のシユートは林吉の好守にはばまれたり、バーにあたつたりでもう一步といふところ。そしてついに36分佐藤村田のパスで先取点を上げ前半をおわる。

後メンバーをぐつと入れかえる。今度もやや優勢、フォワードもメンバーを小刻みに入れかえてがんばる。栄光はCF成宮の三得点をふくんで3点入れたが、防大は何か

守にはばまれたり、バーにあたつたりでもう一步といふところ。そしてついに36分佐藤村田のパスで先取点を上げ前半をおわる。

後メンバーをぐつと入れかえる。今度もやや優勢、フォワードもメ

GK	佐藤 青山	中村(文)
FB	戸田 伊東・中川	伊東・樋口
HB	秋山 相川	新井 渡辺・渡辺(卓)
FW	羽田 佐藤・成宮	村田 吉田・山本
	越智	越智・渡辺(若)

みな機嫌良く控え室にもどる。風呂に入る前に水道へ手足を洗いに行くと水が冷却装置で冷たくな

つている。風呂は丁度入り加減で

何もかも至れりつくせり、言うこ

とはない。しかも、その後林吉に

Pメでおこつてもらう。しかもで

ある。わが輩の所でラーメンが売

り切れて、わが輩たけカレーライ

ス、全く幸運な日である。

バスが来たので反省会を切り上げ、どやどや乗りこんで、坂道を下る。みな「こんな試合なら又や

られる。

m それならとちよつとゆっくり走

つたら、つっこみなさいとどな

られる。

m どちられどうしで試合が終りや

どなられどうしで試合が終りや

今度は反省会でたたかれる。

ワイング哀歌

一 ウィング 十三期 疲労・浩

m キーパーが球を持ったら大声出して、叫んだけれども知らんぷり

m インナーに四苦八苦してバス渡

しや、さあ追っかけろと前にけ

m けんめいに走つてとつたと思つたら、バックにけられて又バソ

m ク

m 慢命にバスをもうおとダツニユ

すりや、又オフサイドだとどな

m られる。

m それならとちよつとゆっくり走

つたら、つっこみなさいとどな

m られる。

m 今日は勝つし、我々にとつて全く

m どなられどうしで試合が終りや

今度は反省会でたたかれる。



十三期 有士心

それは八日もおしせまつた二十七日の朝のことである。いつものようにはここ横須賀中央駅にはやけつゝようお太陽の為に暑さがみちてきている。朝九時のことではまだしまつてある店もある。その前を駅からはしだされた人々が、忙がしそうに歩いている。おや、駅前に一人、二人と集つてきたのは、わがサツカーレの十三期の面々ではないか。戸田、中村^(ス)、新井、村田、秋山、渡辺^(君)、佐藤のしめ

藤君にひつぱうれて急行バスに飛び乗つた。

さつきから良い道がつづいて、みんなねむそなうだが、只一人新井君は依然としてしゃべつてゐる。朝九時のことではまだだがもうそろそろ「詰機入口」だろ。見たことがあるよな、名いような店がつづいている。アリヤー? これはどうしたことが、バスはアレヨアレヨというまに、駅を通りすぎて坂を下つてしく。

ああこの駅には急行バスはとまら、お顔。でもすぐにモノボリをはじない。横のふとつたおばさんの言ふとおりだ。まだがまだかと思つているとやつとバスがとまつた。えなあ「またアンニヤロバイトじやねえか」……。私にはなんといつているのが解らない。が、どうやら彼等は、これから諸磯へ行つて一泊する気らしい。幹事の佐藤君にひつぱうれて急行バスに飛び乗つた。

つくと早速みんち櫻に向つてとびだす。と思つたら数人はぐつとこうそで鬼畜を始めたではないか毛布をして腰はいになつて讀書をよせて相談する。宿題を休み中には終らずには情板交換が必要である。遊は青くキラキラと光つて絶好の水泳日和である。ところがどうして帰つて来た太田君である。(へや、

クラゲにさされてあれ) いたそう

れている。勉強していた奴等はサッカーゲームを始めた。三時間毎良やつていた渡辺君はここで本領発揮である。アオソードをれば横へ数回まわしてギーパーをぐらつかせ、なんのためにシユートという芸当をおめにかけた。

サッカーゲームと実際のサッカーのうまさは反比例するという説があり。次は食堂への渡り廊下でみんなで、コムボールサッカー。勝手にゲームをつくつて、ガタガタやる。ちよつと前に来たムーキンが活躍して彼のゲームが優勝する。ところがサッカーの種類はこれだけでない。八時頃から十時半までは外でナイターをやるという元気のいい所を見せる。ドン・ジホールをなつての激闘で、両者ともに鮮烈

は二桁になつた。汗でぬれた肌に照明灯の光が反射してひかる。ゴルキンしたボールは遠く暗やみの中に消える。空には火星が光つてゐる。

もちろんその前に午後はみんな泳いだ（但メイコを除く）。ところがまたあらわれたのはクラゲ君である。アツイタイ、アツイタイと所々に聞える苦痛の声、あわててボートにとびのる者、あそこにはと宣言。でもクラゲがいないときが交互に聞える。波の音が静かに響いてくる。

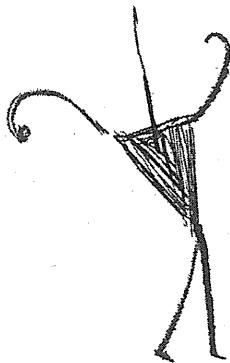
次の日にも朝がきた。飯はまあまあ、半分ぐらには十時まで勉強と宣言。でもクラゲがないときいて九時半ごろになるとおおかた海へ行つてしまつた。二三人は整備にも残つていてるが海は楽しい。大ボートをこいで沖のくいの所へたりける。よいしょよいしょとボートこぎ、ペツと表辺にかけ上り、たつたつと事務室へ、葉をつけて阿鼻叫喚の大さわぎ、みんなのたれてる水しぶき、空へさつとそちつろがサッカーの種類はこれだけでない。八時頃から十時半までは阿鼻叫喚の大さわぎ、みんなのたれてる水しぶき、空へさつとそちつての激闘で、両者ともに鮮烈なつたつてえんえん二時間半裸に夜はねた。頭を中にあるくフトンをしてねた。松林にさらさらとある風の音と、ジヨーニジのいびきが交互に聞える。波の音が静かに響いてくる。

午後もポートをこぐ。京マチ子
達の別荘の下へ行く。波が荒くな
つてきた。手にマメもできた。ク

ラゲも出て来た。陽はまた沈む。
おお、もうページがない。車で

一路横浜にむかう。

おお、もうページがない。車で



サツカーフ音樂歌

十五期 社恭平

蹴りたさに

願書を書きて

入部せり

練習

まつていました

キンギング

グラントに

走つて行けば

ランニング

五周目を

ねばつてはしる

びりつかす

練習を
終ればすぐに
水飲み場

飲みほして

家に帰るには
腹はら重し

半年たつて

新部員の

先輩なり

今だに

すかぬランニング

わかつちや
いるけど

やのられ度い。

一筆啓上

十期 中前 峴

サッカー部の諸君、元気ですか。ぼくも益々元気です。新人戦はもう終ったね、とつくに。ミヤアそうなりーぐ戦の方は、いつ頃始まるんだい。といつても、学校の方が非常に忙がしくて、試合の様見にはとてもいけないが。とにかく、横浜国大で奴は、びどい。他の国立大学が一年半かけてやる教育課程を一年間につめちまうんだから。おかげで、大学に入つて来るになる所か、毎日、四時(午後)過ぎまで、授業があつてかなわん。ぼくの入つたのは造船科で、こ

ないだ、コンペがあつた。サッカーボード部の大会のつもりで、駄菓子にデカラシのお茶を期待していつも、なんとビールとウイスキーだけだつたから驚くじやないか。先輩連に腰がゴボコボいう程

ビールを飲まされたあげく、でかく、横浜国大で奴は、びどい。うがまよつたんだ。國大は三部のケツの方だから、ぼくでも、入れば正選手らしい。でも、ぼくは、采光をはなれては、君達のようなくよう、手紙でいつといたから、したことのないぼくには、ミヨンクだった。

一部の方は、サッカーに入るがどうか、横浜国大で奴は、びどい。書いてあつたね=DASH。ていど、田や市村、京都の連中にも、書かれ、この方、アルコール分を口に、君達からも請求したまえ。ぼくもそのうち書いてもつていくよ。それから、十一号の題字ね、茶色で書いてあつたね=DASH。ていど、表紙の奴は、今までしばらく、黄緑を使ってあつたろう。あれは、采光のケームカラードからそうしてあつたんだ。十期の連中が色をえたのを不審に思つて、君達も考える所あつて色を変えたの

りヨント部の大会のつもりで、駄菓子にデカラシのお茶を期待していつも、なんとビールとウイスキーだけだつたから驚くじやないか。先輩連に腰がゴボコボいう程ビールを飲まされたあげく、でかく、横浜国大で奴は、びどい。うがまよつたんだ。國大は三部のケツの方だから、ぼくでも、入れば正選手らしい。でも、ぼくは、采光をはなれては、君達のようなくよう、手紙でいつといたから、したことのないぼくには、ミヨンクだった。

一部の方は、サッカーに入るがどうか、横浜国大で奴は、びどい。書いてあつたね=DASH。ていど、田や市村、京都の連中にも、書かれ、この方、アルコール分を口に、君達からも請求したまえ。ぼくもそのうち書いてもつていくよ。それから、十一号の題字ね、茶色で書いてあつたね=DASH。ていど、表紙の奴は、今までしばらく、黄緑を使ってあつたろう。あれは、采光のケームカラードからそうしてあつたんだ。十期の連中が色をえたのを不審に思つて、君達も考える所あつて色を変えたの

だろうが、もう一度、皆で相談して、考えてみてくれ。デザイナー

も、あの黄緑、あの字体を生かすのが手腕じゃないかな。一度変へ

ると、仲々、落ちついたのがみつからない。そんな誤でぼくは、元の表紙の題字に戻してほしい。君達がもちろん決めることだが。

高丘の連中よ、しつかり勉強せいよ！

高丘、高工の連中、勉強忘れて

サッカーをせい！

申丘、中丘、勉強と、サッカーと両方せい！

中工、何んでもいいからせい！

関東大会に出てくれよな！

創立記念祭にはいくよ、工大

大会もよう！

ミツカリナ！

苦悶

十三期 戸田忠澄

腰もくだけぎみとなりぬ。汗をかき乍き飯も塩味つけつつ食うなど飯

いといみじ。三つ四つ二つなど飯つぶ落つるのをかまわず、はし音

たくましく大口にがっさりとつ

アケセクするうちにすぎ、しかして二期とある。シルベーデイトをくぐりて遠くよりごぶさたのグランドをながめれば練一色にてベ

ールにおわれる如き感じあり。近くによりて、ゴール後に立てば、

はじめて雑草おいしげりたるを見

る。ああなきけない。これがサッカーフランク。うらめしや夏草

よ。

さて、今学期最初の授業、学

ぶを忘れた頭にアレヨーと一

時間は過ぎてゆく。二時間目にぎ

りなれずの鉛筆汗せばむ。四時間

目廢すき、すわりなれずのりすに、く吹きて快し。

夏休み直後の練習ほどみぐるし

きものはなし。ランニングの息切

れ苦しきことこの上なし。サイド

サイドをして当然相手にスーと渡

るはずのボールはボツと鉛き音に

總んでしまう。フライと後を何い

てとつと走り出す足はこび、お

ぼつかなし。合宿を思い出すにい

とさびしくおぼゆる。シューイン

ングなどするにボール足に当り来

らす、足に当りても全く前に飛ば

ず、己の後にくるくまわりたる

いとにくし。バウンドするボール

を蹴るに、足空を走り、飛ぶをへ

ンドするに頭ごたえたし、いとさ

びし。ランニングするに、息切れ

三周目には今にもたおれるかと思

れる。

帰り道の暗く人気なくさびし
春の疲れどつと出ていと苦しきこ
げなれど歌など歌い、諭じありな

としてゆくはサンカーレならでの
樂しさなり。明るき道の例の肉屋

のごとく、サンカーレならではな
り、三・四、二へづつなど群をな
して行くほどに、色男でありやむ
しやと思うてかは知らねど、行き
がう入ごとにじろりくと見てゆ
く、よからぬ心地なり。ついに我

慢できずになりて、八日屋に入り
てリングを求む。そのうまきこと
さらなり。道ゆくに、東芝よりい
出たる人々のいと看くけそうじた
がうらやましげに横目でじろり

走りきことこの上なし。駆につき

て階段を登るに足重く鎗りのくつ

はくじ地をす。例の屋根に例のご

おく力バンをどたりと置けば、鍊

鎖り道の暗く人気なくさびし
春の疲れどつと出ていと苦しきこ
げなれど歌など歌い、諭じありな

ランニング

十五期 松本甲太郎

つらいランニング

バテるランニング

遙くて長いランニング

速くて短いランニング

どっちもバテる

おデブがどすどす

ノッポガスイズイ

おチビガエツサカ ホイサカ

中間がピヨコ ピヨコ

馬力のあるのがダツダダダツ

指導がオイチミと

サブが「がんばれ」

あと一周と元気よく

走つたあとでも笛はならん

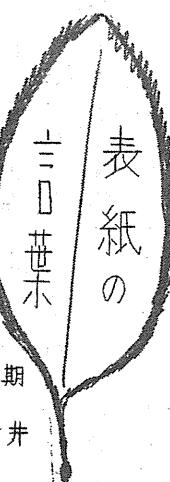
やつと鳴った笛の音で

我が胸はスーカスカ

表紙の

三日 茂木

13期
新井



△もう完全に冬である。秋の代表的なものは紅葉である。紅葉の赤色というのは、イナゴやバラに見られる西洋的な赤色ではなく、日本的な文字どうり紅色である。その紅葉に黄色味がさし

ると一年の四季も終るのである。

△さて、この時期になると練習も

最後のことばばかりである。あの素晴らしい紅葉のように、一年のしめく

くりとして、高校は全国大会、中

学は県大会、共に真赤に輝きたいものである。

△色彩のことといえば、表紙の題

字の変ったことには、すでにお気づきのことであろう。以前の題字は実に良く、単純な図案の中に何が重量感のあるものであつた。しかも、チーム・カラーである緑色がいかにも、ナーム・カラーである緑色といふ印象を与えた。

△しかし、元来緑色は他の色彩とは調和といふ点では非常にこなしにくい。だから、どうかすると、にぎやか過ぎたり、寂し過ぎたり

してしまう。それが、イナカ高校の野暮がらスマートさに変えたい

と思ひ、表紙の内容を変えることの動機となつたのである。

△前号では試験的にあの題字を使つてみたが、絵に着彩を欠いた感があった。本誌からは越智さんや現役諸君の助言や批評を大いにとり入れ、戯画的な表紙から抽象的な

ものに脱皮するつもりである。姚けた。しかし、チームのカラーと彼ら先輩達の御支援、御協力をういうものは、部内から自然ににじり出で来る雰囲気であり、何も變

づきのことであろう。以前の題字は、チームのカラーだからといふ理由だけで新しい試みを止めるという考え方は、後だけを見て進歩を期待しないということではないだろうか。もし、そうならば、そういう考え方方が、近來の発光サッカー部活動の一因となるつているとも考えられる。そこで部の革新の一刺激にならばと思ってふみ切つたのである。

△ただ、チーム・カラーだから……』という批評も少なからず受けた。しかし、チームのカラーと彼ら先輩達の御支援、御協力をういうものは、部内から自然ににじり出で来る雰囲気であり、何も變

後記

せんでした。次には是非お願ひします。

○アフアミリー、オブサンカ！」

です。この号は中川編集長最後のものです。代して読んでください。

○本来なら9月が10月に発行するはずなのに一ヶ月以上もおくれて誠に申しわりありません。こちらの怠慢をおわび致します。

○又今度は前号がふくれ過ぎたための反動で、頁数をできるだけ制えたため、せつがく御投稿いただいたのですが、一部の原稿を削除させていただきました。あしからず。

○今号の話題は「ソフトライ

ト」の山本マサヨさんです。女性のサッカー部員がいるとは、我々にとつて心強い話です。

○先輩にも二、三お頼いしたのですが、残念ながら、おいそがしいため、一つも書いていただけま

とは二号の三期生エバラさんの文に出でくる言葉です。が5年たつた今でも、部員に新らたな感激を与えています。もしも、この12号の

すみっこからでも、そう言つた。いつまでも皆の胸に記憶をとどめられるような個所があつたら編集者と

してこの上ない喜びです。(中川記)
「ダツシユ」なんてなあ作るのは簡単だ。原稿集めて光有社にまわし

ちまえはいいんだろう。てなこと思つてその気になつて、編集員になつたのが大間違い、というほど

でもないがなかなか大変です。何か変つたことをしようと思うとすぐ予算にひつかかる仕掛けになっています。でも今号もできあがり

B
A
S
H

昭和三十七年十一月十日印刷
昭和三十七年十一月十五日發行
發行所

榮光学園魔球部

編集員

中川亮一謙
相川浩威

顧問

吉川

威

印 刷 光 有 社 (70) 8010